

○本文

5月の地震活動の地震活動について。

まず、豊後水道の余震は「12回」となっており先月中の発生回数より「22回」下回る回数となった。豊後水道の地震は長期的に被害を及ぼすほどの大規模な地震ではなかったため、長期間余震活動が頻発し本震と同程度の地震が発生から約1ヶ月経過した今も発生する確率が高いとは言い難いことから、豊後水道での地震には最大限の警戒はする必要はない。

また、岩手県沖での地震の余震の発生回数も減少傾向にあり、本震と同程度の地震が発生するとは言い難いが、岩手県沖及び福島県沖は常に地震が多い地域であるため、今後震度4以上の地震が発生する確率はその他地域での平時の確率と比べ高い。

また、台湾付近での地震の余震活動は日本で震度1以上を観測したものに関しては0回であるが、現在も台湾付近では余震が続いている。このようなことから、地震が完全に静音化したとは言えない。また、地震の規模が7.6と規模の大きい地震であったため長期的に余震活動が続くことが予想される。また、津波予報(若干な海面変動)を伴う地震は、数回発生しており今後も津波への注意は必要である。

以上のように、先月は地震活動が活発であり、比較的大規模な地震や中規模の地震の発生が多く、被害を伴うものが多かった。しかし、今月においては先月の地震による余震活動も静音化している。ただ、今後も大規模な地震が発生する可能性はあるため、引き続き地震対策は必要である。